

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和8年 6月 19日	
岩手県知事 達増 拓也 殿	
提出者 住 所 岩手県大船渡市盛町字二本杵5番 氏 名 株式会社 アマタケ 代表取締役 甘竹 秀企 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0192-26-5205	
岩手県循環型地域社会の形成に関する条例第9条の2第1項の規定により、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 アマタケ 大東第5農場
事業場の所在地	岩手県一関市大東町沖田字天狗沢79-2
計画期間	令和8年4月1日～令和9年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	012 畜産農業
②事業の規模	令和8年度 生鳥出荷羽数 379万羽 (アマタケ全農場) (令和7年度比92.4%)
③従業員数	5名 (令和8年4月)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	動物の糞尿→農場のボイラー燃料として利用→焼却灰 ◎焼却灰は肥料として販売。

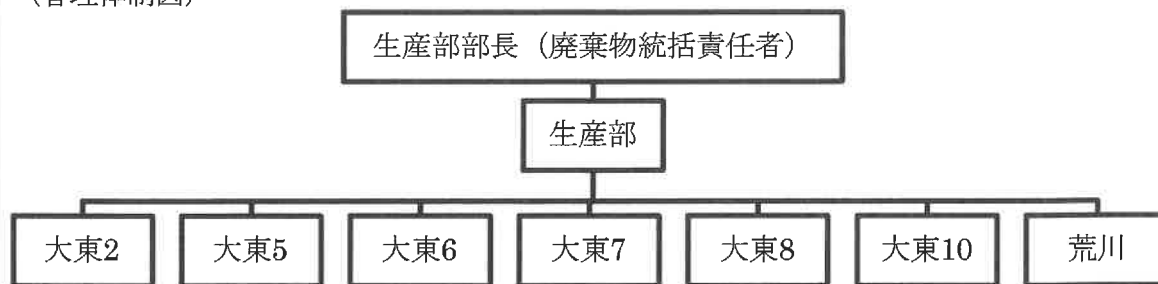
(日本工業規格



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	排出量	503 t	
	(これまでに実施した取組) 飼育管理の徹底による水分量の減少。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	排出量	464.8 t	
	(今後実施する予定の取組) 飼育管理をさらに徹底し、水分量を増やさない。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) —

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	92.6 t	
	（これまでに実施した取組） ボイラーの燃料として利用し、燃焼熱は鶏舎の暖房に利用する。焼却灰は肥料として販売している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	85.6 t	
	（今後実施する予定の取組） これまでの取組みを継続する予定。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	410 t	
	（これまでに実施した取組） ボイラーの燃料として利用し、燃焼熱は鶏舎の暖房に利用する。焼却灰は肥料として販売している。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	378.8 t	
	（今後実施する予定の取組） これまでの取組みを継続する予定。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	
	(今後実施する予定の取組) —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和7年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	全 処 理 委 託 量	0 t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	(これまでに実施した取組) —		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動物の糞尿	
	全 処 理 委 託 量	0 t	
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	
	(今後実施する予定の取組) —		
※事務処理欄			

【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類： 全体)

数値は、
上段：前年度実績値
下段：今年度目標値

有償物量

不要物等発生量

自ら直接 再生利用する量	t
②	-----

自ら直接埋立処分又は 海洋投入処分する量	t
③	-----

排出量	t
①	503.0 464.8

自ら中間処理した後 再生利用する量	t
⑧	92.6 85.6

⑩のうち再生利用 業者への処理委託量	t
⑫	-----

自ら中間処理した後 自ら埋立処分又は 海洋投入処分する量	t
⑨	-----

自ら中間処理した 後の残さ	t
⑤	92.6 85.6

自ら中間処理 する量	t
④	503.0 464.8

⑩のうち熱回収認定 業者への処理委託量	t
⑬	-----

直接及び自ら 中間処理した後の 委託処理量	t
⑪	-----

自ら中間処理によ り減量した量	t
⑦	410.4 379.2

④のうち熱回収 を行う量	t
⑤	-----

⑩のうち熱回収認定 業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託量	t
⑭	-----

⑩のうち優良認定 処理業者への 処理委託量	t
⑪	-----

項目	前年度実績値 今年度目標値
①排出量	503.0 464.8
②+⑧自ら再生利用を行った量	92.6 85.6
⑤自ら熱回収を行った量	t
⑦自ら中間処理により減量した量	410.4 379.2
③+⑤自ら埋立処分又は海洋投入 処分を行った量	t
⑩全処理委託量	t
⑪優良認定処理業者への処理委託	t
⑫再生利用業者への処理委託量	t
⑬熱回収認定業者への処理委託量	t
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を 行う業者への処理委託量	t

【別紙】今年度の計画

(産業廃棄物の種類: 動物の鶏糞)

)

数値は、
上段:前年度実績値
下段:今年度目標値

有償物量

不要物等発生量

自ラ直接
再生利用する量
②

自ラ中間処理した後
再生利用する量
⑧

排出量
①

自ラ直接埋立処分又は
海洋投入処分する量
③

自ラ中間処理した後
自ラ埋立処分又は
海洋投入処分する量
⑨

項目	前年度実績値	今年度目標値
①排出量	503.0	464.8
②+⑧自ラ再生利用を行った量	92.6	85.6
⑤自ラ熱回収を行った量		
⑦自ラ中間処理により減量した量	410.4	379.2
③+⑨自ラ埋立処分又は海洋投入処分を行った量		
⑩全処理委託量		
⑪優良認定処理業者への処理委託		
⑫再生利用業者への処理委託量		
⑬熱回収認定業者への処理委託量		
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		

自ラ中間処理
する量
④

自ラ中間処理した
後の残さ
⑥

自ラ中間処理した後
自ラ埋立処分又は
海洋投入処分する量
⑨

④のうち熱回収
を行う量
⑤

自ラ中間処理によ
り減量した量
⑦

直接及び自ラ
中間処理した後の
委託処理量
⑩

⑩のうち優良認定
処理業者への
処理委託量
⑪

⑩のうち再生利用
業者への処理委託量
⑫

⑩のうち熱回収認定
業者への処理委託量
⑬

⑩のうち熱回収認定
業者以外の
熱回収を行う業者
への処理委託量
⑭